プリンセス

小公女セーラ

第39話

『馬小屋の寒い夜』

（仮）

AR台本

企画
制作

日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第三十九話　『馬小屋の寒い夜』（仮題）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
登場人物
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

セーラ…………島本須美
ベッキー…………鈴木みえ
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
モーリー…………向殿あさみ
ジェームス…………郷里大輔
ラムダス…………田中秀幸

ラビニア……………山田栄子
ピーター……………坂本千夏
ロッティ……………渡辺菜生子
アーメンガード……………八百板万紀
ジェシー……………飯塚はるみ
ガートルード……………佐々木るん
クリスフォード……………仲村秀生
パスカル夫人……………

カメラ	画面	音声
1	威丈高にセーラを見おろすミンチン	ミンチン「全く、煙突掃除やピーターを使ってこんな事をさせていたなんて」
2	顔を見合わせるセーラとベッキー	
3	ミンチン、ジェームスに ジェームス、手前へ行く	ミンチン「フン、どうせあの連中に盗んで来させた品物でしょう、ジェームス、構わないから全部とりあげておしまい！」 ジェームス「へい、院長先生！」
4	ジェームス、手当り次第に燭台や食器をとる	
5	見ているセーラ、ベッキー	
6	毛布をまるめるジェームスドアの外へ放り投げる	
7	ミンチン	ミンチン「セーラ、お前には、もうこの屋根裏

			部屋に住ませる訳にはいきません。さ、来るんです！」
8	馬小屋の中、ワラに倒れ込むセーラ　エミリー、写真		
9	夜　モーリー、ドアをバタンと閉める		モーリー「フン、院長先生がお前の寝倉は今夜からそこだとさ」
10	エミリーと写真額を拾うセーラ		
11	女学院　翌朝　木枯し吹く　ガス燈を消しに来る点燈夫！		
12	ガス燈　灯が消えてゆく		
13	点燈夫　根元のコックをひねる　去って行く　木枯しがふく		
14	馬小屋の中　明り窓がカタカタ言う		

15	うす暗い一隅にセーラ　ゆっくりT・U		
16	エミリーと写真額を抱いて眠っているセーラ　ふっと眼をさます　肩をすぼめ窓の方を見る		S・E　（明り窓の音　カタカタ）
17	窓がカタカタ鳴る		
18	セーラ、エミリーに		セーラ　「ああ、もう朝なんだわ……お、早よう、エミリー、寒かったわね。大丈夫？」
19	エミリー		
20	エミリーに話すセーラ ゆっくりT・U		セーラ　「エミリー……ここがどこだか判っていて？……そうよ、ここはお父さまが買って下さったポニーの馬小屋だったのよ」
21	（回想）　いななくジャンプ		（ヒヒヒ〜〜〜ン）
22	回想		セーラ　「あ、ジャンプ、待ってってたら！」 ピーター「お、おじょうさま！」

	ニンジンを食べるポニー　笑う セーラとピーター		
23	元にもどってT・B 吐息するセーラ、エミリーを抱きしめる		セーラ　「そうよ、エミリー……私たちとうとう、その馬小屋で寝たり、起きたりすることになったのよ……」
24	うす暗い小屋の中 エミリーを壁にもたれかけさせる　写真額を取る		セーラ　「さ、もう台所へ行かなくては……じゃエミリー、寒くて淋しいでしょうけどここで待っていてね」
25	写真に話しかける エミリーの隣りに立てかける　立ち上ると手前へ歩きかける		セーラ　「ごめんなさいお父さま……こんな所へ連れてきてしまって……お母さまも許して……じゃ行ってきます……」
26	エミリーと写真額手前をセーラの足		
27	小屋のドアにセーラ近づいて開ける　吹き込む風		

28	馬小屋から出てくるセーラ　吹き抜ける寒風に身を縮める ドアを閉める		S・E・（風音　ヒュー　ヒュー）
29	裏庭　セーラ歩いてくる		
30	両腕を抱いて歩くセーラ FOLLOW		
31	階段を降りてくるセーラ　地下室へのドアを開けて中へ入る		S・E（教会の鐘の音）
32	ベッキーの部屋　寝ているベッキー　目をさます　ハッとしてガバッと起き上る		
33	起き上るベッキー　あわててベッドから出ると毛布をたたむ		
34	ベッキーの部屋のドア開いて出てくるベッキー　ドアを閉めて手前へ早足で歩いてくる		

35	セーラの部屋のドア　ベッキー そっと開けてみる		
36	のぞくベッキー		
37	ガランとした部屋の中		
38	ベッキー見ていたがドアを閉め る		
39	ベッキー　階段を降りて行く		
40	三階　眠っているシーザー　気 がつく		
41	降りてくるベッキー		
43	ベッキー、ドア開けるとまつわ りつくシーザー　急ぎ足で歩く ベッキー		ベッキー「シイッ……」 シーザー「ニャ……」
44	地下階段付近　降りてくるベッ キー　探しながら来る		ベッキー「おじょうさま……」

	洗い場を開けてみる　返事はない　ドアを閉めて手前へ		ベッキー「おじょうさま……」
45	アイロン部屋　ベッキーin　そっとドアを開けてみる		
46	のぞくベッキー		
47	アイロン部屋内からっぽ		
48	ベッキーがっかりしてドアを閉める		
49	ドアから離れるベッキー		
50	ベッキー廊下を探しながら来る		ベッキー「おじょうさま……」
51	台所　ドア開けて探しながら入ってくるベッキー　ハッと見る		
52	炉の前で火を起こしているセーラ　ベッキーin　ふり返えるセ		ベッキー「おじょうさま……」

	ーラ立ち上ってかけよるベッキー	セーラ「ベッキー……」
53	ベッキー近づいて	ベッキー「おじょうさま心配してたんでございます。昨夜はどこにお寝みになったのかと」 セーラ「ありがとう、ベッキー……なんとか寝めたわ、ワラが沢山あって」
54	おどろくベッキー	ベッキー「えっ……そ、それじゃ馬小屋に……?」
55	セーラ	セーラ「ええ……仕方がないわ、私達のあの魔法は終ってしまったのですもの…」
56	ベッキー音に見る	ベッキー「おじょうさま……」 S・E（ドアの開く音）
57	ジェームスとモーリーがあくびしながら入ってくる　モーリーエプロンのヒモを結く	ジェームス「いやあ、よく寝たよく寝た」 モーリー「毛布がいいとよく眠れるもんだねえ」
58	はっと顔見合わせるベッキーとセーラ	セーラ「お、お早ようございます、ジェームスさんにモーリーさん」

		ベッキー「お早ようございます」
59	一同　笑う二人	ジェームス「なんでェ起きてたのかい……いまな、昨夜お前から、その、頂戴した毛布の事を話してたところだ……ウワッハハハ……」 モーリー「ヒヒヒ……」
60	その嘲笑に耐えるセーラ	
61	セーラたちなめのジェームスとモーリー	モーリー「なんだい……お前、私たちがあの毛布を使ったのが気に入らないとでもいうのかい」
62	セーラ	セーラ「い、いえ……そんな事は……」
63	モーリーとジェームス モーリー手前へ	モーリー「フン、取り上げろと仰言やったのは院長先生なんだからね……さあさあ、寒いからって火起しばかりしてないで ～ 朝食の仕度にかかるんだよ！」
64	モーリー二人の間を調理台の方へ	

65	セーラ		セーラ「はい、モーリーさん……」
66	振鈴を鳴らすアメリア		S・E（カラ〜ン　カラ〜ン）
67	食堂　皿にパンをのせるセーラの手		
68	パンを配るセーラ　ベッキーお皿を配っている　ドア開いて　ロッティ、アーメンガード以下の女生徒たちが入ってくる		S・E（ガチャ）
69	ロッティ達セーラに気付いて		ロッティ「あ、セーラ・ママ！」 アーメンガード「セーラ！」
70	ふり向くセーラ		セーラ「あ、ロッティにアーメンガード」
71	セーラに駆けよるロッティ、アーメンガード　他の女性徒たちも来る		ロッティ「セーラ・ママ、大丈夫だったの？」 アーメンガード「私、昨夜あなたが連れられて行く所を見て、この学院を追い出されるんじゃないかと思って……」
72	ロッティ心配そうにセーラにた		ロッティ「そうよ、私、心配で心配で眠れなか

	ずねる	ったのよ」
73	セーラ、皆に説明する ロッティ、セーラにしがみつくように	セーラ「ありがとう、ロッティにアーメンガード……でも心配しないで……ここを追い出されたりはしなかったのよ……ほら、こうして働いているでしょ」 ロッティ「じゃ、今度は屋根裏じゃなくてどこのお部屋になったの？」
74	ちょっと困るセーラ ラビニアの笑い声　ハッと見るセーラ	セーラ「お、お部屋って……それは……」 ラビニアの声「決ってるじゃないの」 セーラ「ハッ！」
75	ロッティたちも扉の方を見る 入口に立つラビニアたち　つかつかと歩いてくる	
76	手前からラビニアin　女性徒たちを分けてセーラの前に立つラビニア、ガートルード、ジェシー	
77	セーラなめラビニアたちニタリ	ラビニア「フフ、あれ程院長先生を怒らせたん

	とする　ラビア達にT・Uする		すもの、他に寝かせてもらえる所があるとすれば……馬小屋だけよ」
78	ロッティびっくりして		ロッティ「えっ、馬小屋……？」
79	アーメンガードもおどろいて ざわめく女生徒たち		アーメンガード「そ、そんな……」 生徒達「（アドリブ）」
80	ラビニア意地悪そうに　ラビニア得意になって言う		ラビニア「どう違って？」 セーラ「……」 ラビニア「どうしたの？　みんな聞きたがってるんだから
81	ラビニアUP　冷たく笑って		←あなたの口から言ったらどう？」
82	セーラ、じっとラビニアを見つめている		
83	ラビニアも見つめる		
84	セーラ、明るい表情で答える		セーラ「そうよ……あなたの言う通りよ…… 私は今、馬小屋で寝起きしているのよ」

85	ロッティたち二人の様子を見ている		
86	アーメンガードたち、どよめく		アーメンガードたち「（アドリブ）」 〜
87	ラビニア大得意になって		ラビニア「フフ、聞いたでしょ、みんな…… 〜 こちらのおじょうさまはね、昔お飼いになっていた馬の馬小屋に今は住んでいらっしゃるんですって」
88	ラビニア、イヤミたっぷりと言う どっと笑うラビニア、ジェシー、ガートルード		三　人「フフフ　ハハハ　ホホホ……」
89	アーメンガード、セーラを見つめて		アーメンガード「セ、セーラ……」
90	泣き顔のロッティ		ロッティ「セーラ・ママ……」
91	凝然とラビニアを見ているセーラ		
92	ベッキーが泣きそうな顔見る		S・E　（足音　コト　コト　コト）

93	ドアから入って来るミンチンと アメリア一同見る		
94	ラビニアたち自席の方へ向かう		
95	席につくロッティたち		
96	席につく女生徒たち		
97	ラビニア愛想よく挨拶する		ラビニア「お早ようございます、院長先生」
98	一同も挨拶する　ミンチン、ア メリアも挨拶に応える		一　同「お早ようございます、院長先生」 ミンチン「お早よう」 アメリア「お早よう、みなさん」
99	セーラなめミンチン　ジロリと セーラを見る		
100	セーラハッとする		セーラ「お早ようご……」
101	ミンチン叱りつけるように		ミンチン「お黙り！」
102	セーラ、ミンチンを見つめて		

103	一同、シーンとなる イライラしているミンチン		ミンチン「よくも抜け抜けとそんな挨拶を……〜〜〜 私はお前を許した訳ではないのですから ね」
104	ミンチン、セーラをニラミつけて　焦々とするミンチン		アメリア「お、お姉さま！……」 ミンチン「眼ざわりです、台所へお退り！」
105	返事して歩き始める		セーラ「は、はい、院長先生……」
106	そっと出て行くセーラ（空になったカゴを持っている）		
107	心配気に見送るベッキー		
108	泣き顔で見送るロッティ		ロッティ「ウウウ……」
109	アーメンガードうつ向いている		
110	顔を見合わせて冷笑するラビニア、ジェシー、ガートルード		
111	台所　消然と入ってくるセーラ		

	ドア閉める こっち見るセーラ		モーリー(off)「さあさあ、ボヤボヤしてないで ←〜〜
112	まくしたてるモーリー		(on) 今日は冷え込むから、院長先生に文句を云われないうち、教室に火を入れとくんだよ」
113	セーラ		セーラ　「は、はいモーリーさん……」
114	地下石炭置場　石炭を入れる		
115	セーラ、スコップで石炭をすくってバケツに入れる　スコップを置いて　もち上げる　運ぶ		
116	振鈴を鳴らすアメリア		
117	教室　ふいごで石炭を燃やしているセーラ		
118	暖炉に火		
119	入口、ドア開いてラビニア達入		

	ってくる 暖炉の方を見る　ラビニアたち 右へ	ラビニア「寒いわね……」
120	セーラ気がついて立つ	
121	セーラの前に来るラビニアたち	ラビニア「なによ、まだ教室温めてなかったの！ かぜ引いちゃうわ」 セーラ「ごめんなさい、石炭が湿っていて…」
122	セーラなめて三人 ラビニア、セーラを押しのける	ラビニア「なんとか云って自分だけあたってた んでしょう、どいてよ」
123	火のそばへ行くラビニアたち	
124	凝然と立ち尽すセーラ	
125	見ている他の生徒たち　うしろ ミンチンが老女教師を連れて入 ってくる　生徒たちそれぞれの 席へ	
126	ラビニアたちも席の方へ	

127	席に着く一同		ミンチン「紹介します……今日からみなさんにフランス語を教えてくださるパスカル夫人です」
128	セーラ、ハッとして見る		
129	気がつくミンチン　ジロリと見る		ミンチン「何をしているのです……セーラお前には関係のないことです、出てお行きなさい」
130A	セーラ　バケツを取る		セーラ「は、はい、院長先生」
130B	バケツを取るセーラの手		
131	手前、ラビニア達の向こうをセーラ、ドアの方へ		
132	ドアを開けるセーラ　出て行く		
133	見ているミンチン、パスカル夫人		S・E　（ドア閉まる音　バタン）
134	廊下　ドアの所から歩き出す		

	歩いてくる		女生徒たちの声「ボン・ジュール・マダム・パスカル……」
135	ふっとセーラの足止まる		
136A	うしろから振り返るセーラ		
136B	セーラにT・U		
136C	吐息して歩き出す		
137	歩いて行くセーラ　地下室の方へおりて行く		

〈前　半　・　おわり〉

138	地下洗い場　皿や鍋などを洗う手もと		
139	皿を洗うベッキーとセーラ		

140	ドアが開いて　モーリーが没収した銀の食器などを抱えて入って来て手にした食器を見てにっこりして二人の方を見る		モーリー「さ、これもついでに ～ よく洗って磨き上げといてくれ」
141	二人モーリーを見る		
142	二人顔を見合わせる		ベッキー「おじょうさま……」
143	モーリー、ジロリと二人を見て 容器が一つ落ちる		モーリー「なんだよ、お前たち……どうせこんな立派な食器は、お前たちには用はないだろう、私らが使ってあげるから安心おしフフフ」
144	モーリーの足の上に落ちて転がる		
145	痛がるモーリー		モーリー「あいたっ……いたあ……」
146	顔を見合わせるセーラとベッキー　セーラ落ちた食器を見てかがむ		

147	セーラ食器を拾う		モーリー「いたたた……」
148	ひろい上げて食器を見つめるセーラ		
149	Fr・inしてそこへ入ってくるジェームス セーラ、ジェームスを見て返事する		ジェームス「おーい、セーラ買い出しに行く時間だぞ」 セーラ「はい、ジェームスさん」
150	モーリー、ジェームスをたしなめるようにして ジェームス思い出したように気付いて		モーリー「ちょっと!……お前さん、院長先生に云われたこと忘れたのかい?」 ジェームス「ン……おっと、いけねぇ、セーラを表へやっちゃまずいんだったな」
151	モーリー説明する ジェームス、ベッキーに言いつける		モーリー「そうさ、また市場でピーターから食物でももらうといけないからだってさ」 ジェームス「判ってるよ……じゃ、今日から買物はベッキーだ、いいな」
152	返事するベッキー 心配そうに顔を見合わせるセーラ、ベッキー		ベッキー「は、はい……」

153	使用人階段の下　ドア開いて買物カゴを持ったベッキーと見送ってくるセーラ ベッキー階段を上っていく		ベッキー「じゃ、おじょうさま行って参りますです」 セーラ「お願いね、もしピーターに逢えたら私の事は心配しないでって」 ベッキー「はい、おじょうさま……」
154	見送るセーラ　中を見る		モーリー(off)「セーラ！……一体どこにいるんだい、お前に手伝わせる仕事があるんだよ」 ～
155	階段を上ってくるベッキー　向こうセーラがドアを閉める　中に入る　ベッキー見送っている		
156	見ていたベッキー　吐息をつくと　歩き出す　out する		
157	歩いて行く　ベッキーがレースのカーテンごしに見える　手前肩に猿をのせて見ているラムダスが in してくる		

158	みつめるラムダス	
159	暖炉のところにクリスフォード、犬　振り向くラムダス　飛び降りるサル　ピョンとクリスフォードのヒザに乗る　首をふるラムダス	クリスフォード「どうだね？……お隣りの屋根裏の少女の様子は……」 ラムダス「残念ながら買物に出かけたのは、べッキーというメード一人でした」
160	サルは肩に乗ったりしている	クリスフォード「すると……やはり、昨夜のことで手ひどい仕置きを受けているのだろうか」
161	ラムダス答える	ラムダス「おそらくそうだろうと存じます……」
162	ラムダス説明する	ラムダス「御主人様からの品物は全て取りあげられてしまったようでございます……」
163	悲しげな表情をして肩の猿をなでるクリスフォード	
164	女学院　地下使用人室の前　立っているセーラ　手前から毛布をかかえたモーリーがin（没収	

	した毛布）　セーラに渡す		モーリー「さ、これを干しといとくれ」 セーラ「はい、モーリーさん」
165	毛布を見て悲しげな目で見る （唇をかんで）		
166	いやらしく口をゆがめて笑顔をするモーリー		
167	扉開いて毛布を持ったセーラ出てくる		
168	ロープに毛布をかけるセーラ		
169	毛布を広げるセーラ　ロープに干る　ふと隣家を見上げる		
170	（アオリ）　隣下からT・B 手前にセーラ		
171	見上げているセーラにゆっくりT・U		セーラⓂ「ごめんなさい……私、折角の御親切をメチャメチャにしてしまったんです……」

No.	画面		セリフ
172			
173	買出し人たちの風景		
174	コベントガーデンの店先		
175	花屋の店先　店番のピーター		ピーター「なんだって？……おじょうさんがあの馬小屋に？」
176	ベッキー説明する ピーターびっくりして		ベッキー「そうなのよ、ピーター、院長先生はその魔法のごちそうを、あなたが運び込んだに違いないって思い込んでいるのよ」 ピーター「そ、そんなバカな……」
177	ベッキー心配そうにたずねる 考え込むピーター「そうだ		ベッキー「おじょうさまは心配しないでって仰言やってるけど、私もうおじょうさまがお気の毒でどうしていいか……」 ピーター「そうだったのか……
178	考えうつむいていたピーター、キリッとなって顔を上げる		〜 よし、ベッキー、オレ一緒に行くよ!!」

179	キョトンとするベッキー		ベッキー「え……」
180	ピーター頼もしい感じで		ピーター「おじょうさまをこのままにしておくわけにはいかないんだ！」 ベッキー「ピーター！」
181	にっこりとしてうなずくピーター		
182	ミンチン女学院　裏側　音が聞こえる		S・E（トン　トン）
183	屋根裏部屋　金づちがトントンとうたれる		
184	セーラの（だった）屋根裏部屋　天窓に板切れと打ちつけているジェームス　下に板を持ったセーラ		
185	見上げているセーラ		
186	ジェームス打ち終り開かないこ		

	とを確かめる		ジェームス「ようし……これでピーターだろうが煙突掃除だろうが〜
187	唇をかみじっと見つめるセーラ		(off) 入ってこれやしめえー」
188A	ジェームスたしかめていたが降りる		
188B	イスから降りて床にドサッと飛び降りる		
189A	壁穴の前メルの一家驚いて穴に逃げ込む		メル一家「チュー　チュー!」
189B	ジロリと気がつくジェームスセーラも振り返り見る		ジェームス「ン?!……」
190	見つめていたチビ、あわてて引っ込む		
191	舌打ちして　セーラの持っている板を一枚とる		ジェームス「……ネズミどもめ、こんなところへ穴をあけやがって……借しな……」

192	穴の方へ行くジェームス		
193	穴を見つめるセーラ		
194	板で穴をふさぎ釘を打ちつけ始めるジェームス		S・E　（トン　トン　トン）
195	唇をかみ、じっとこらえるセーラ　T・U		セーラⓂ「メル……許して……」
196	金鎚を使うジェームス		S・E　（トン　トン　トン）
197	金鎚が自分の手を打つ はれあがる指		←～
198	悲鳴をあげるジェームス		ジェームス「あいたたたた！…… ～ たた……」
199	ハッとなるセーラ　手をぶらぶらするジェームス　指をなめるジェームス　セーラ、ドアの方を見る　手前へ out ジェームスけとばす		モーリー(off)「セーラ……そこが終ったら、こっちの仕事を手伝うんだよ！」 セーラ　「はい、モーリーさん」 ジェームス「イチチチ……クソ、ネズ公どもめが！」

200	釘の頭がクッにくい込む		
201	ジェームスゆがむ顔		
202	飛び上るジェームス 足をおさえてケンケンする		ジェームス「ギャァ〜〜〜!! いたたたたたたたたたたァ〜〜!! クソクソ」
203	裏庭　毛布を取り込んでいるセーラ		
204	二枚目も取り込むセーラ　後の扉が開きベッキー出てくる		セーラ　「どうしたのベッキー」
205	駆け寄るベッキー　セーラに何事かささやく		
206	驚くセーラ		セーラ　「えっ! ピーターが……?!」
207	木戸のところで中を窺っているピーター		
208	ピーター　キョロキョロとあた		

	りを窺い見て　サクに登る		
209	木戸の内側ピーターの手　顔を出すと様子を見る		
210	ピーター飛び降りる		
211	馬小屋の方から駆けてくるセーラ		セーラ　「ピーター……」
212	前方を見てにっこりするピーター　走る		ピーター「お、おじょうさん……」
213	走り寄る二人		
214	ケゲンそうにピーターを見つめているセーラ		セーラ　「どうして……どうして、こんなところまで……」 ピーター「おじょうさん……俺、おじょうさんを迎えに来たんです！」
215	驚くセーラ		セーラ　「えッ！……」
216	必死な表情のピーター　T・U		ピーター「こんなひどい学院にお嬢さんがとじ

			込められてるなんて、オレもう我慢出来ないんです……お嬢さん！　おれの家に来て下さい！」
217	キョトンとなるセーラ		
218	じっと見つめ		ピーター「……せまくて汚ないけど、食べて寝る位、オレがなんとかします……」
219	呆然とピーターを見つめるセーラ　T・U		ピーター(off)「……こんなところにいるよりよっぽどましです」
220	二人　フカン　T・U		
221	必死な顔で見つめるピーターのり出して		ピーター「……お嬢さん！」
222	見つめるセーラ		セーラ「……ありがとうピーター……でも……でもダメなの、ここを出るわけにはいかないのよ」
223	セーラなめてピーター		ピーター「なぜです……なぜ、ここを出るわけに……？」

224	セーラ 絶句して顔を少しそむけ唇をかむ		セーラ「判って、ピーター……私、今負けそうになる自分に、勝とうとしているのよ……今逃げたら私、自分の弱さに負けたことに……」
225	ピーターのぞき込む感じ		ピーター「おじょうさん……」
226A	二人のフカン　T・B　一階の踊り場で見ているラビニア		
226B	ラビニア　ふと後で声がする ハッとして振り返える		声「ラビニア……」
227	思いつめた顔のアーメンガードが立っている		アーメンガード「教えて！……なぜ、あなたってあんなにセーラをいじめなきゃいけないの?!…… 〜 なぜ、そんなにセーラを憎むの？」
228	inするアーメンガードの背中 冷やかに微笑を浮かべて		ラビニア「フフ…私がなぜセーラを憎むかですって？」 アーメンガード「え、ええ……」 ラビニア「もう憎んでなんかいないわ」

229	アーメンガード		アーメンガード「えッ？」
230	ラビニアより返って		ラビニア「そりゃ、セーラが初めて私の前に現われた時は憎んだかも知れないわ…… ～ だって、私よりお金持ちで私よりフランス語ができておまけに私より美人に見えたんですものね」 ←～
231	向き合う二人		
232	茫然と聞くアーメンガード		
233	にやりとしてゆっくりと窓の外を見るラビニア		ラビニア「でも、今は違うわ……」
234	外を見下ろし　T・U		ラビニア「……セーラが私よりお金持の筈はないし、フランス語どころか台所のメイド……服だってボロで私より美人だなんてとても見えないでしょうからね」
235	一歩前に出るアーメンガード		アーメンガード「じゃ……どうして……？」 ラビニア「フン……教えてあげましょうか ～ それはね、セーラが落ち目になったの
236	振り向いてT・U　パッと走る		

	パッと走る		に、ちっともこたえた振りを見せないからよ！……それが許せないのよ！」
237	階段を駆け上って行くラビニア		
238	茫然と見送るアーメンガード		
239	夜、ガス燈の灯がゆれている		
240	ミンチン女学院　灯りがひとつまたひとつと消えていく		
241	ポットやヤカン等を洗っているセーラとベッキー		
242	洗う二人——ベッキーあくびをする　二人顔を見合わせて笑い合い——又洗い出す		
243	洗う手　水がぴちゃぴちゃとはねる		
244	窓から見える外は暗い　隣りの		

	葉の落ちた木のこずえがかすかにゆれている		S・E　（風の音）
245	洗いものが終る頃のセーラとベッキー　棚にしまうベッキー　ポットをキュッキュッとふき棚の方もっていき置くセーラ		セーラ「これでおしまいよ」 ベッキー「ハァ……やっと終りましたですね……」
247	まくってあった袖を下ろし手をこすり合わせ息を吹きかける二人		二　人「はあ……はあ……」 ベッキー「おじょうさま……」 セーラ「え？」 ベッキー「また、今夜もあの馬小屋でおやすみになるんでしょうか」
248	淋しく笑うセーラ		セーラ「仕方がないわ……」 ベッキー「いけませんです、おじょうさま…… 〜 こんなに冷え込んできてるのに、あんな所でおやすみになったら、死んでしまいますです」
249	セーラ悲しげに顔をそらして		セーラ「でも……」

250	明るい顔をしてセーラの手をとりうつむいているセーラをのぞき込むベッキー		ベッキー「さ……！　屋根裏の私の部屋へ参りましょう……」
252	ゆっくりと顔を上げ見つめるセーラ――　悲しげな顔――　なみだが浮かんでくる――　こらえるセーラ――　かんだ唇が震えている		
253	やさしい笑みを浮かべてにっこりとしてセーラを見つめるベッキー		ベッキー「……二人で寝れば……火なんかなくても温まれますです……」
254	じっとベッキーを見つめるセーラの目に溢れるなみだがつっと一筋流れおちる　ベッキーに抱きつくセーラ　ぼうだと流れるなみだ		セーラ　「……ベッキー！……」
255	抱き合う二人　はっとなり声の方を見る二人		モーリー(off)「フフフ……」←〜

256	入口に立つモーリー	
257	ギョとした二人 二人はなれる	モーリー「そうはさせないよ」
258	セーラ達なめ　近づいてくるモーリー	
259	セーラとベッキー	
260	モーリー	モーリー「院長先生からセーラにはたっぷり仕置きするように云われてるんだからね ～ ベッキー、お前は屋根裏へお行き！」
261	モーリー指さして ベッキー手前扉の方へ来る　ドアを開けて出て行く　ベッキー ドア閉まる	ベッキー「は、はい……それじゃ、おじょうさま、おやすみなさいまし」 セーラ「おやすみベッキー」
262A	セーラを見るモーリー	モーリー「さ、お前は馬小屋だよ」
262B	悲しげな顔で返事するセーラ	セーラ「はい、モーリーさん……おやすみな

		さい」
263	外　木枯し吹きゆれる隣りの木のこずえ	
264	地下室のドア開いて出てくるセーラ　ドアを閉め　ゆれる髪の毛　さむい―― 体をだきしめる	
265	木がゆれている	
266	フカン…　馬小屋の方へ歩くセーラ	
267	肩をすぼめて歩くセーラ	
268	馬小屋にたどりつくセーラ　重い扉を開ける　中へ入る	
269	馬小屋の中　セーラ扉を閉める ハア…　重い足どりで手前へ歩いて来る	

270	馬小屋の奥　エミリーと写真額がある　セーラ in ぎみ　どっとワラの上に座り込む		
272	エミリーのとなり倒れる写真額 セーラの手が取る		
273	写真をみつめるセーラ		
274	写真		
275	セーラ　ゆっくりT・U 眼から涙があふれてくる		セーラⓂ「お父さま……私、本当はくじけそうなんです……ここで耐えていくことに……」 S・E　（風の音強くなって）←〜
276	馬小屋の中のセーラ		
277	溢れおちる涙 F・O		

＜END＞